

旭川工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質化学工学科 (2021年度以降入学者)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	地理A (東京書籍) 地図 (帝国書院) 地理Aワークノート (東京書籍)					
担当教員	谷口 牧子					
到達目標						
①現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景, 日常生活との関連をふまえて考察し, 現代世界の地理的認識を養います。 ②地理的な見方や考え方を培い, 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養います。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文化の多様性を認識し互いの文化を尊重することの大切さを十分に理解できる。		文化の多様性を認識し互いの文化を尊重することの大切さを理解できる		文化の多様性を認識し互いの文化を尊重することの大切さを理解できない。	
評価項目2	国家間や国家内で見られる経済問題や民族・宗教問題など、文化的相違に起因する諸問題について複眼的に理解できる。		国家間や国家内で見られる経済問題や民族・宗教問題など、文化的相違に起因する諸問題について理解できる		国家間や国家内で見られる経済問題や民族・宗教問題など、文化的相違に起因する諸問題について理解できない。	
評価項目3	科学技術や産業の発展が、自然環境に及ぼした影響について十分に理解できる		科学技術や産業の発展が、自然環境に及ぼした影響について理解できる。		科学技術や産業の発展が、自然環境に及ぼした影響について理解できない。	
評価項目4	環境、資源・エネルギー、人口、食糧問題等の地球的規模の諸課題とその背景について、文化的な相違も踏まえて理解できる		環境、資源・エネルギー、人口、食糧問題等の地球的規模の諸課題とその背景について理解できる。		環境、資源・エネルギー、人口、食糧問題等の地球的規模の諸課題とその背景について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
物質化学工学科の教育目標④ 本科の教育目標③						
教育方法等						
概要	現代国際社会における日本の現状を理解するために、異文化や国際的な問題について理解を深める。					
授業の進め方・方法	基本的には、座学形式で行うが、授業中にレポートを書いたり、外部有識者による講演会等も予定している。					
注意点	当たり前のことですが、忘れ物をしないでください。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 地球儀と世界地図からとらえる地球	地球儀や世界地図を活用することで、球面上の世界に関する基本的枠組みを身につける		
		2週	日本の位置と領域 結びつく現代世界 (世界の国家群)	国家の三要素と国境の概念, 日本の地理的位置と領域, 日本の抱える領土問題を扱うことで, 世界的な見地から日本という国を考察する。		
		3週	貿易で結びつく世界 交通通信の発達と観光による人々の移動	経済のグローバル化に伴う日本の産業構造の変化や多国籍企業の活発な事業展開について考察します。		
		4週	自然環境と文化 生活の舞台としての地形	写真や地形図を用いて, 地形環境と人々の生活との関係を考えます。		
		5週	生活の舞台としての気候	写真を用いて, 各気候区の特徴や気候環境と人々の生活との関係について考察します。		
		6週	生活の様式としての文化	写真や具体物を用いて, 文化とその多様性について理解します。		
		7週	生活の基盤としての産業	現代産業の特徴と私たちの生活との関係について考察します。		
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	東アジアの生活・文化と環境	東アジアの代表的事例として中国と韓国の生活・文化を取り上げ, 地域性や歴史的背景との関わりから考察します。		
		10週	東南アジアの生活・文化と環境	東南アジアを構成するASEAN諸国の多様性について, 宗教・民族・経済などの側面から考察します。		
		11週	南アジアの生活・文化と環境	写真や主題図を用いて, 南アジアの生活・文化の特徴について理解します。		
		12週	西アジアの生活・文化と環境	西アジア・北アフリカの生活・文化の特徴について理解します。		
		13週	アフリカの生活・文化と環境	アフリカの生活・文化の特徴について理解します。		
		14週	ヨーロッパの生活・文化と環境	EU統合によってもたらされた産業面・生活面での変化, 地域間格差の現状について考察します。		
		15週	ロシアとその周辺諸国の生活・文化と環境	ロシアとその周辺諸国の生活・文化の多様性について理解します。		
		16週	前期末試験			
後期	3rdQ	1週	北アメリカの生活・文化と環境	北アメリカの生活・文化の多様性について自然環境や歴史的背景, 民族性と関連づけながら考察します。		

		2週	中部・南アメリカの生活・文化と環境	中部・南アメリカの生活・文化の特徴について自然環境や歴史的背景，民族性との関わりから考察します。
		3週	オセアニアの生活・文化と環境	オセアニアの生活・文化の特徴について自然環境や歴史的背景，民族性との関わりから考察します。
		4週	世界の資源・エネルギー問題―資源の枯渇の危機	エネルギー利用の歴史的変遷をふまえ，エネルギー消費の地域差とその背景について，地球的視野から考察する
		5週	世界の人口問題―どれだけの人々が地球に住めるのか	発展途上国が抱える人口爆発の問題，先進国が抱える少子高齢化の問題，それぞれの解決策について追究・考察します。
		6週	世界の食料問題―飽食と飢餓が同居するアンバランスな世界	先進国における飽食の問題と発展途上国における飢餓の問題について追究・考察します。
		7週	世界の都市問題―人々は快適な都市をつくれるか	発展途上国と先進国それぞれの都市問題の現状と解決策について追究・考察します。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	世界の環境問題①	人間社会と自然環境との関わりや生態系破壊のメカニズムについて理解します。
		10週	世界の環境問題②	地球温暖化を事例に環境問題発生メカニズムとその影響について考察します。
		11週	地球的課題をめぐる国際協力と日本の取り組み	国際協力への取り組みの現状と日本の取り組みを理解します。
		12週	持続可能な社会の実現に向けて	地球的課題の解決へ向けての様々な国際的取り組みとその課題を整理します。
		13週	身近な地域と地図	様々な種類・表現の地図を取り上げ，その役割について考えます。
		14週	日本列島の自然環境と自然災害	日本列島の自然環境の特性を自然災害発生との関わりから考察します。
		15週	日本列島の自然災害と防災	各地域における自然災害の克服へ向けた取り組みについて理解し，自助，共助，公助の観点から防災意識を高めます。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	2	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	1	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	1	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	1	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	1	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	1	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	1	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
				目標の実現に向けて計画ができる。	1	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	1	

				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	1	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	1	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	1	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	1	
				企業には社会的責任があることを認識している。	1	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているかを説明できる。	1	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	1	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	1	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	1	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	1	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	1	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	1	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	1	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	1	

評価割合

	試験	レポート課題	ワーク・ノート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	10	0	0	0	100
基礎的能力	80	10	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0